



ボランティア通信 2016. 6 Vol.194

なかま

発行 交野市ボランティアグループ連絡会
(交野市ボランティアセンター内)

V連絡会 E-mail vltr94@leto.eonet.ne.jp

Vセンター E-mail katabora@nike.eonet.ne.jp

ボランティアを
紹介してほしい人
ボランティア活動を
はじめたい人
ボランティアセンター
にお問い合せください
(☎894-3737)

大阪府市町村ボランティア連絡会

平成28年度総会&講演会

5月20日、大阪府市町村ボランティア連絡会の平成28年度総会及び講演会が大阪府社会指導センターで、府下29団体のボランティア組織が集まって開かれました。



保険改正に伴う地域やボランティアに期待される役割、多発する災害への対応並びに減災への取り組み、認知症等の当事者支援のあり方、生活困窮者への対応など社会的課題についても意識の共有を進めることが示されました。

連絡会結成20周年
記念イベントを開催

また今年には連絡会結成20周年にあたり記念イベントが11月13日(日)に大阪府立大学「I-Site なんば」で開催されることが決まりました。

総会では事業報告、決算報告に続いて今年度の事業計画、予算が賛成多数で承認されました。
事業計画では、連絡会の活性化に向けた方針に加えて、介護

第2部講演会

ホームレス問題について考える



ビッグイシュー基金
理事長 佐野章二氏

認定NPO法人ビッグイシュー基金の佐野理事長は「ホームレスには失業、住居喪失など経済的な問題に加えて、身近な絆を失うことによって」と指摘。当事者が「社会的孤立」をして、ホープレス(希望を失う)になり、ホームレスに陥ってしまうことが多く、当事者の仕事と自助型の支援を念頭に3つの柱として、①ホームレスの自立応援、②問題解決のネットワークづくりと政策提案、③ボランティア活動と市民参加など事業展開について事例を交えて支援の現状を紹介されました。

そして「ホームレスの方を見かけたら、『こんにちは!』と声かけをしてみてください。おそらくびっくりされます。でも、ホームレスの人は一人ぼっちの方が多いので、きっとそのひと言が、その人と社会をつなげるきっかけになるはずですよ」話し、ボランティアや理解者が広がることが大切であると結ばれました。

ボランティアグループ 近況あれこれ

在宅訪問「陽だまり」 毎月情報交換会を開催

これまでの年2回のグループ交流会では仲間の意思疎通が難しく困っていましたが、今年から全員が集まらなくても月1回の情報交換会を実施することを決めました。

第1回目の5月6日には13人が集い、傾聴依頼者の話をはじめ、いろんな話題が出され、訪問時の参考になることも多く、会員からも好評を得ましたので、この情報交換会を毎月続けることとし、グループ活動のパワーアップに繋げていきたいと思っています。



歌体操



総会終了後、みんなで記念撮影

外出介助「がざぐるま」

年度初めの定例会を開催

「がざぐるま」は1人で外出できない方の車イス介助・外出介助（買物や通院等）や付添いをしております。その他、福祉施設の行事（初詣・お花見・夏祭・文化祭での模擬店）の手伝いや来訪者の見守りもしており、皆さんから感謝され

ております。あくまで各メンバーの都合に合わせての参加です。この5月15日の特別養護老人ホーム明星での川の川まつりは盛大で他のボランティアの方たちと一緒に活動しました。ささやかですがやりがいのある活動です。



5月26日年度初めの定例会を開催

笑みを絶やさず

4月下旬、総会・会食の後、初夏に向けて「お楽しみ体操」の振り付けの確認や「脳トレ」など、みんなと一緒に楽しみながらの練習です。いつもの調子で笑いが絶えません。訪問活動の中でも笑いが出ると最高の気分です。HANDのモットーは寝たきりに、ならない、させない、作らない！です。

障がい者支援の協働にむけて 知り合うことからはじめよう

5月24日、リーダー会議に社会福祉法人心生会の竹之中理事、鍼施設長のお二人をお招きして、障がい者支援の実情等について心生会の活動を通して貴重なお話を伺いました。

平成7年心生会発足

この年は精神保健福祉法が改正され、精神疾患の一部も障がいとみなされ障がい者サービスが受けられるようになり、4月にミルキーウェイを立上げ、その後法人格を取得し、ヘルパーステーションのり、相談センターのり、グループホームが設立されました。

地域で共に生きる

精神障がい者、知的障がい者を受け入れ、就労支援をはじめ障がい者の自立に向けたサポートを地域とも協力しながら進めておられます、「障がいがあってもなくても、同

じ地域の住民として自立した暮らし」という理念のもとに、地域でよりその人らしく生きるには、障がい者自身がどれだけ自己責任を負えるかも課題であると話された。

支援の枠組みづくり

障がい者のなかには作業所などに繋がっておらず、ヘルパーだけを利用している人、家庭で引きこもっている人、介護保険制度をはじめ制度の狭間で困っている人など、地域住民やボランティアとの連携・協働で支援の枠組みが必要です。今後はみなさんとの交流を深めながら支援の輪が広がることを願っています。

ボランティア インタビュー43



平井美智子さん
点訳「虹の会」

ボランティアを始めたいきっかけは……

職場の研修で選んだのが点訳でした。退職後「虹の会」に入ってもらいました。当時は点字板でしたが、やがてパソコン点訳となり四苦八苦でした。退職前から盲のご婦人と繋がりが出来ていて、点字板で手作りしていたカレンダーを「虹の会」で引継いでいただきました。

活動していて気づいたこと
などをお聞かせください

私ら晴眼者がこれでいいだろうと思っただけの点訳したものをお叱りを受けたことがあります。点訳には、書く方向や語の区切り、配列などの決まりがあることを教わりました。点訳が遅々として進まない頃、点字文

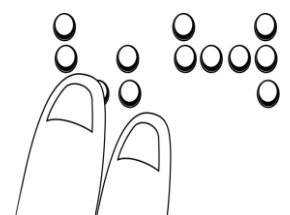
をあまりにも早く読む子どもを見て、やめようと思った時もありました。でも自分の指で読みたいだろうと思っ、やめずに現在に至っています。

関心事、趣味などは？

新聞などを見ていても点訳に適したものはないかなという思いで読んでいます。職場で点字を始めた頃に手打ちで仕上げた世界名作童話の点字本には愛着を感じています。

後輩へ伝えたいことは

点訳する本や記事等は選ぶ人の主観も入りますが、我々のように目で見て選べませんので、「これなら」と思うものがあつたら、どうか点訳してあげてください。どんなものが良いかを知ること大事だと思います。



<熊本地震義援金>

ありがとうございました

①街頭募金

4月26・27日(火・水)商業施設や駅前等で実施されました。両日で13万146円の義援金が集まり、大阪府共同募金会に送金し、共同募金会を通じて、被災者の復興支援に使われます。ご協力ありがとうございました。

②募金箱設置

社会福祉協議会、ボランティアセンター、市内福祉施設等に設置されています熊本地震義援金箱は6月30日まで設置していますので、引続きご協力をお願いいたします。

6月のボランティアサロン

「交野のまちのボランティアいろいろ」

誰でも気軽に参加でき、ボランティアに関して、知る、学ぶ、交流するサロンを毎月開催しています。

「色々な活動情報を知りたい!」の声にお応えして、6月は参加者のみなさんの話をお聞きしながら、ボランティアコーディネーターが色々な活動をご案内します。お気軽にご参加ください。

と き 平成28年6月23日(木)13時30分～15時30分

ところ ボランティアセンター2階

内 容 様々なボランティアの紹介

対 象 ボランティア活動に興味のある市民

参加費 無料

申込み・問合せ ボランティアセンター

電話/FAX (894)3737

リーダー会議

(5月24日)

☆会長挨拶

・大阪府市町村ボランティア連絡会総会及び講演会
(1頁参照)

☆連絡会より

・二大行事実行委員会報告
・市民交流フェスタ(9月3日開催)

・健康福祉フェスティバル

ふれあい広場(11月13日開催)

・リーダー親睦会(6月28日開催)

・グループ助成金について
6月の役員会で決定

☆センターより

・熊本地震災害義援金(4面)
・ゆうゆうセンターロボビーのショーケースについて

・ボランティア個別依頼に関して

☆障がい者支援について
「心生会」竹之中氏(3面参照)

☆ボランティアセンター指定管理について

社会福祉協議会・山本氏



「これ、梅酒やで」
初夏の昼下がりが、怪しげな笑みを浮かべ、コップを差し出す母。
当時小学生のわたしは、ドキドキしながら受け取り、飲み干しました。それはそれは美味しく、フルーティーで爽やかな梅の香りを、いまでも忘れられませんが。当然、お酒だというのは母の冗談で、手製の梅ジュースなのでした。
ところで最近、青梅を手に入れました。梅ジュースをつくるためです。あの時のわたしと同じ年になった息子に飲ませたら、どんな顔をするのでしょうか。
きっと、わたしはあの時の母と同じ顔をしていると思います。
(そらみつ)